

●平成21年 日本建築士会連合会賞 入賞作品

奨励賞

○設計者

岡田 耕治

●大阪府建築士会



○教育施設

武庫川女子大学 建築学科・大学院建築学専攻 建築スタジオ

●兵庫県西宮市戸崎町1丁目

選評

武庫川の西宮側のほとりにこの建物は建っている。緑に囲まれた環境の中に遠藤新設計の甲子園会館（1930年竣工）を本館とし、建築学専攻スタジオが新設された。この2つの建物はこんもりとした森を挟んで平行に配置されている。

本館からスタジオにアプローチする時、森の中につくられた竹藪の小径を抜けて行き来し、2つの建物を時間軸の中でつないでいる。このように、大きく自然と融和したランドスケープは気持ちのよい外部空間をつくり出している。

スタジオを生きた教材にするために、構造・設備はスケルトンで表現し、建築の成り立ちがダイレクトにわかるようにつくられている。構造システムはT型ジョイント版PCを用い、エッジの効いたデザインとロングスパンが空間を囲い取っている。ここで学ぶ学生は、構造の美しさと力の流れを目で見え触れることによって建物は教材として生きている。

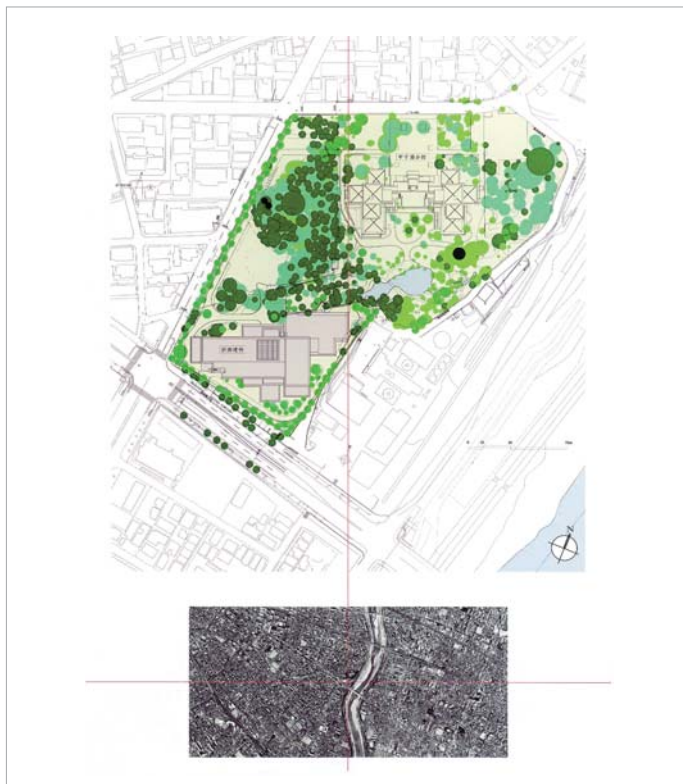
設備システムは露出した表現で、空調機械室は強化ガラス扉でシースルーとし、空調機本体からダクトへの仕組みが見えることで設備そのもののあり方が見えるように表現されている。

建築を表現する材料は、時間が経てば経つほど味わいを深めていくものが使われている。本物を見ることによって素材そのものが持つ力の重要性が感じとれるように表現されている。

2つの建物の共通点はライトが好んだ日本的な深い庇を各階に回し、水平と垂直のラインを強調し、それらが互いに重なり合い、自然と融合する建築である。（竹原義二）



A



配置図

1930（昭和5）年、遠藤新の手によってこの地に生を受けた甲子園ホテル（現甲子園会館）は、いまなおその姿を原型のままとどめている。75年を経て、この奇跡ともいえる建築と向かい合うこととなったスタジオ棟は、現代的であろうとしながらも、甲子園会館と血のつながりのようなものが感じられる建物にしたいと考えた



B



C



D

岡田耕治

武庫川女子大学 建築学科・大学院建築学専攻 建築スタジオ

A : 2層分、高さ8.4mのスレンダーな一本もののPCaPC柱が重なり合ったところに、シャープで伸びやかな庇が跳ね出しながら架かる

B : 外観

C : 風除をくぐると学生たちを迎えるのは、上部に向かって広がっていくエントランスアトリウム。外部から連続するシーケンスを一旦ここで受けとめ、ここを核に各階に導く

D : アトリウムから、南と西へ延びる2本のギャラリー廊下は内法4.3m。打放しRCがブルータールになりすぎないように、梁とスラブはスキャロップさせてリズム感を出した

● 構造・階数 : RC造、一部PC造、一部S造、地上3階建

● 敷地面積 : 35,626.86㎡ ● 建築面積 : 3,871.60㎡

● 延床面積 : 7,559.94㎡ ● 竣工 : 2007年3月